

(様式 5)

8 学校アクションプラン

令和4年度 桜井高等学校アクションプラン — 1 —			
重点項目	学習活動		
重点課題	・自主的・意欲的な学習態度の育成と学習時間の確保		
現 状	・授業はまじめに受けている。予習や復習を含めた自主的・意欲的な学習時間の不足が見られ、学習の時間の確保や習慣化が望まれる。 ・専門学科では各種の検定を積極的に取り組んでおり、一定の成果をあげている。		
達成目標	① 【普通科生徒対象】 学習時間(平日)が2時間以上の生徒の割合 80%以上		② 【土木科生徒対象】 測量士補試験・2級土木施工管理士試験の合格率 それぞれ90%以上
			③【生活環境科生徒対象】 家庭科各種検定の合格率 90%以上
方 策	・学習の記録や授業アンケート、面接を通して家庭学習の意義や必要性を促していく。 ・ICT機器の活用等、授業改善に一層取り組む。 ・総合的な探究の時間等を一層推進し、主体的な態度を育成する。		・HRや進路学習などから資格取得や進路実現への意欲を喚起していく。 ・手帳を活用して授業や課題に計画的に取り組ませ、課題等を確実に提出させる。
達成度	① 6月と11月に実施した調査における平日の学習時間が2時間以上の生徒の割合は学年別で次のとおりである。 1学年 2学年 3学年 全体 6月 81% 91% 90% 88%(82%) 11月 81% 92% 90% 87%(91%)		②測量士補(3学年) 78%(70%) 土木施工管理技士 81%(97%) ③家庭科技術検定 99%(98%) ()内は昨年度
具体的な取り組み状況	・学習の記録や考査結果等、担任・副担任を中心に定期的な面接を通して、家庭学習への意識付けや学習習慣の確立に向けて検討した。 ・普段の授業や公開授業でICT機器を活用した授業を行った。		・新型コロナウイルス対策を継続し、放課後補習、個別指導、朝学習での課題学習、専門講師による講演・講習を行った。 ・外部模試2～3回(専門学科の各学年)、公務員模試4回(希望者)、企業就職模試3回(希望者)等を実施した。
評 価	A	・全学年の学習時間が、昨年同様、高い割合(6月88%、11月87%)であった。全体が80%を超えた。	B ・土木科の測量士補の取得率が前年よりも上回った。 ・生活環境科は保育・被服・食物の様々な検定に挑戦し、目標を達成した。
学校関係者の意見	・学習への取り組みは安定しているようである。日常的な学習習慣の定着に繋がることが望まれる。		・高い合格率で推移しており、高い目標に向けて頑張っている状況が見られる。
次年度に向けての課題	・学習意欲の向上につながるよう、ICTの活用、面接、授業の改善等、生徒の状況にあわせて対策をたて、継続して実施するように検討する。		・補習などを充実するとともに、地域との連携や外部専門講師による講演や講習をとおして、生徒の意欲的・積極的な取り組みにつながるよう検討する。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和4年度 桜井高等学校アクションプラン — 2 —				
重点項目	学校生活（品位ある服装・挨拶ができる望ましい生活習慣の確立）			
重点課題	・SNS等の正しい使い方 ・挨拶の励行と制服の品位ある着こなし			
現 状	・SNS等に安易に画像や情報をアップする行為が見られる。また、誹謗中傷などトラブルが発生している。 ・制服の着こなしに乱れがある生徒は、かなり減ってきているが、継続して指導をしていく必要がある。また、新制服の導入を目指し、生徒会、検討委員会を中心に話し合いを進めている。 ・明るく挨拶をする生徒も多くなったが、さらに徹底できるようにしていきたい。			
達成目標	SNSの危険性を理解しながら活用していると答える生徒の割合		桜井高校らしい新制服の導入	
	90%以上			
方 策	・全校集会やHRで正しい使い方やネットの危険性を指導する。また、保護者等に協力してもらい、家庭でのルールを考えてもらう。		・生徒、職員、PTA等の意見を取り入れ、新しい伝統を作るにふさわしい制服を考えていく。	
達成度	・SNSの危険性を理解しながら活用している生徒 1 学年 95% (昨年度 94%) 2 学年 89% (昨年度 88%) 3 学年 90% (昨年度 86%) 合計 91% (昨年度 89%)		・伝統の紺色スーツ型を継承したデザインとなり、機能面においても動きやすく、手入れがしやすい製品となった。また、ダイバーシティやSDGsと言った時代性に配慮する新制服が完成した。	
具体的な取り組み状況	・外部講師による携帯スマホ安全教室を開催した。（1 学年） ・全校集会、学年集会、HRにおいて使い方指導を行った。		・生徒会が中心となりデザインを考え、教員、業者、PTA等何度となく意見を交わしながら検討した。 ・桜高祭で、ファッションショーを開催した。	
評 価	A	・昨年度に比べ若干上がっている。ネットパトロールからの注意が減ってきている。	A	・生徒の意見が多く反映され、今後の桜井高校で伝統をつくっていくにふさわしいデザインとなった。
学校関係者の意見	・生徒への指導が行き届いてきているようである。SNSを理解しながら利用しているようで、安心した		・制服を決めるまでの取り組み課程や、新制服のデザインがとてもよいと感じた。	
次年度に向けての課題	・SNSによる犯罪などが多くなっているため、生徒の安全を守るためにも継続して家庭との連携を取りながら指導を行っていく。		・生徒が自ら正しい着こなし方ができるよう生徒と対話しながら指導をすすめる。	

（評価基準） A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和4年度 桜井高等学校アクションプラン — 3 —				
重点項目	進路支援（進路について関心を高め、進路目標実現を支援する）			
重点課題	・進路目標の早期明確化と実力養成 ・組織的かつ計画的な生徒の実態把握の推進			
現 状	・学習の記録や面接によって生徒の実態把握に努めているが、進路目標の設定ができず、見通しをもって計画的に学習に取り組むことができない生徒がみられる。 ・受験を意識した学習に取り組む時期が遅く、学習時間が不足している。			
達成目標	①全生徒が進路や学習について複数の教員と面談し、進路目標実現に向けて考える機会		②卒業時で進路についての学習や取り組みが自分の成長に役立ったと考える生徒の割合	
	1・2学年 年間5回以上 3学年 年間10回以上		80 %以上	
方 策	・生徒の学習状況や行事の振り返りシートを学年や関係者で共有し、生徒の現状把握に努める。 ・担任、副担任以外の教員も面接に当たり、生徒が多くの教員と関わるように努める。 ・学年や関係者で生徒の情報交換ができる場を設定し、生徒一人一人に対する個別指導をより充実させる。 ・外部模試等の結果はその都度、教員間で共有し、学年会や検討会等を通して問題点や課題の共通理解を図る。 ・生徒の週課題への取り組みを調査し、スタディサプリの使用等も含め、量と質の適正化を図り、家庭学習を充実させる。 ・進路講演会、大学出前講座、卒業生の報告会、職業体験会などを実施して、生徒の意欲の向上を図る。			
達成度	・平均回数は 1学年 4.0回（5.8回） 2学年 5.5回（4.5回） 3学年 5.8回（8.2回）であった。 回数については生徒の認識の差がある。 ・5回以上面接をした生徒は全校の42%（54%）で昨年より減ったが、各学年で90%以上の生徒が面接が役に立っていると回答している。 ・模試や講演会、県内大学出前講、職業体験学習を実施できた。また、希望制の模試の数を増やし、生徒の意欲向上に結びつくように働きかけた。 ・模試結果は担当者全員に回覧し、現状把握と到達点の共有を行い、生徒の状況に応じた指導につなげた。 ・スタディサプリを活用して学習に取り組むことができるよう、教員が課題を配信するなどして生徒に働きかけた。 ・昨年の卒業生のアンケート結果 役立った割合 専門学科 97% 普通科 89%			
具体的な取り組み状況	・年間を通して多くの先生が面接を実施し、生活面や学習面について生徒の現状を把握した。 ・特に3学年担任は教科担当者と生徒の希望を共有し、指導に役立てた。 ・生徒の振り返りシートや模試結果の共有を通して各生徒の学習指導や進路指導を多くの教員で行った。 ・上級学校や企業など外部講師の講演や説明会等に参加し、進路に対する意識を高めた。			
評 価	B	・面接が役に立ったと感じている生徒が多い。回数がもう少し増えるとよいと思う。	B	・模試や学習でこれまでとは少し違う取り組みを工夫した。
学校関係者の意見	・多くの先生との面接を通して生徒は視野を広げることができている。身近な社会意識が進路意識へとつながってほしい。 ・オンラインと対面の両方に取り組むことで細かく丁寧な指導をしていると感じる。			
次年度に向けての課題	・面接の実施方法や担当者を学年と相談しながら改善し、生徒が面接で進路意識を高めるように工夫する。 ・オンライン教材を有効に使う方法を検討し、効果的に生徒が学習や進路の探究活動に取り組めるように工夫する。			

（評価基準） A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和4年度 桜井高等学校アクションプラン — 4 —			
重点項目	特別活動		
重点課題	・部活動の活性化 ・ホームルーム（HR）活動の充実		
現 状	・部活動の加入率・活動状況ともに高い水準を保っている。新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、安全・安心な部活動運営に努めている。 ・HR活動では、生徒の自主性を尊重し、主体的な活動になる内容を模索している。		
達成目標	部活動に対する満足度 80 %以上	HR活動が学校生活の充実につながったと感じる生徒の割合	
		80 %以上	
		HR活動に積極的に参加した生徒の割合	
		80 %以上	
方 策	・部長会議でリーダー研修を行う。 ・各部員たちが必要な課題を話し合い、安全で適切な部活動ができるよう取り組んでいく。		・HR活動の内容の例を示し、計画させる。 ・計画、運営、振り返りができるよう記録用紙を活用させる。
達成度	・部活動に対する満足度 72%（とても満足 29% 満足 43%） ・不満と答えた生徒が 7%いる。		・HR活動に対する充実度 73%（とても満足 18% 満足 55%） ・HR活動に積極的に参加 81% ・桜高祭でのクラス活動等に積極的に参加した。77%
具体的な取り組み状況	・部長会議で集団活動の意義や必要となることを伝え、他部員への課題解決を図った。 ・新型コロナウイルス感染予防対策を継続して行った。集団や自己の生活、行動の仕方を指導した。		・桜高祭の準備期間、クラスでの話し合い活動の中で、互いのよさを理解し、よりよい人間関係を図る機会となった。 ・健康や防災、将来の目標や在り方生き方などの講話を実施し、自己の成長及びキャリア形成を考える活動を行った。
評 価	B	・技能の向上、人間関係の形成がとれて楽しかったと答えた生徒が多い。 ・北信越・全国大会への出場者が多い年であった。	B ・入学後、新型コロナウイルスの影響で制限ばかり受けていたが、最後の一年は制限がありながらも行事をすることができて楽しかった、嬉しかったという生徒の意見が多数あり。
学校関係者の意見	・コロナ禍の制約があった中、活動内容の基準が生徒個々で違うのではない。したがって、満足度の数値化は難しいと思われる。 ・全国大会や北信越大会に出場している部もある一方、地域のイベントに貢献してくれている部もある。非常に有難い。		・ホームルームの時間がレクリエーションに偏らないよう、その本質を再確認され、教諭と生徒が内容を新しく作り上げていけばよいのではない。 ・普通科と専門学科が一緒に取り組める統一テーマがあってもよいと感じている。
次年度に向けての課題	・日々の部活動を通じて喜びを感じ、卒業の際には部活動の成果や楽しさを振り返ることができるよう、何を部員にさせたいか生徒・顧問が共有していく。		・ホームルームや学校での生活をよりよくするために、学校行事と絡めた生徒主体のホームルーム活動になるよう活動計画・運営を検討していく。

（評価基準） A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和4年度 桜井高等学校アクションプラン — 5 —			
重点項目	その他		
重点課題	図書館利用の活性化		2 学年研修旅行の充実
現 状	- 貸出数はかなり増加しているが、利用者数はそれほど増加せず、本を借りる生徒の固定化は否めない。 - 文学的文章以外の新書や専門分野に関連する本の貸し出し数が伸びない。		進路設計に向けて、生徒の関心・意欲を高めることを目的として実施している。この研修は、生徒の進路希望状況や各科の専門性も考慮したうえで企画・立案し、実施している。
目 標	年間貸出数 ・ 年間利用生徒実人数		進路に対する関心・意欲が高まった割合
	1,500 冊以上 430 人以上		80 %以上
方 策	- 図書委員会活動を充実させ、生徒が図書館を利用したくなる工夫を継続して行う。 - 生徒の要望に添った本を選定する。 - 総合などの探究活動の参照図書を充実させレファレンスを行う。 - 進路学習のための図書を充実させる。 - 学年担当者や教科担当者と連携し、授業での図書室の活動も推進していく。		- 生徒の進路希望や適性、社会情勢などを勘案し、より最適な研修を立案する。 - 生徒が研修に対して目的意識をもって積極的に参加できるように、事前学習の時間を計画的に位置づけ、指導する。 - 進路意識を高めるとともに、学習意欲と資格取得への意識が高まるように指導する。 - めまぐるしく変化する多様化社会を担う世代であることを意識させることができる活動なども取り入れる。 - 新型コロナウイルス感染拡大状況をふまえ、安全な研修を検討していく。
達成度	年間貸出数 1,889 冊 (R5.1.13 現在) 年間利用生徒実人数 378 人		1 泊 2 日に縮小して、例年と同じ時期に実施した。進路意識が高まったのは 76% であった。
具体的な取り組み状況	- 図書委員が恒例行事はもちろん桜高祭や読書週間を通して、本に関する新しい企画展示を行うなど貸出数の増加に積極的に尽力した。 - 単発的ではあったが、教科担当者と連携し、授業で新書などを紹介・利用する機会をもった。		- 新型コロナウイルス感染状況の推移にあわせて、プランを検討し、予防対策を講じて実施した。また、生徒の感染症対策班を設置し、各クラスに向けて注意喚起するなどの活動を行わせた。 - 各科において、進路意識を高めるような指導を行った。
評 価	B	利用生徒実人数の目標は達成していないが、例年 5 割程度の利用者が 7 割程度まで増加した。また、貸出数はここ数年継続して増加している。	B 当初の目的達成はできなかったが、行事としてできたことがよかった。保護者会では、「行けてよかった」、「楽しかったようだ」と話される方がいた。
学校関係者の意見	電子メディアに押されがちだが、読書は人格形成や成長に有効なので、地道な取り組みを継続して行ってほしい。		研修が主な目的であるが、思い出作りの一面もある。安全で充実した研修旅行を今後も行っていきたい。
次年度に向けての課題	図書委員の活動を中心に、生徒への働きかけを継続的に行い、より多くの生徒に利用される図書館を目指す。		新型コロナ対策も緩和されると思うので、コロナ前のような研修を取り入れることができるとうい。

(評価基準) A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった